

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	茶室「櫻庵」利用推進事業							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	文化会館	係	文化振興係	評価票作成者	文化振興係長 蟹江 忠夫
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	文化・芸術活動	コード	4 1 2
					単位施策(中)	文化施設の充実	コード	4 1 2 3
	項	生涯学習の推進			単位施策(小)	茶室「櫻庵」の充実	コード	4 1 2 3 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	「お茶」という日本の伝統文化を守り、伝えたいという意識のある市民。または、「お茶」に親しみ、文化に触れたい意識のある市民。		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	本格的な茶室である「櫻庵」を気軽に利用してもらおう事で、日本古来の文化をより深く再認識してもらおう。そして文化意識を向上させる。更なる文化の担い手を育成する。			
1-5 事務事業の内容	本格的な造りの茶室である「櫻庵」を気軽に、多くの市民に利用していただく事を目的とする。そのためには、本格茶室の特色を活かしつつ、気軽に利用できるよう施設を改善する事、そして気軽に利用できる機会(お茶会)を企画する事が取り組みの特徴である。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取り組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	市民へ広く周知させる事へ主眼を置き、HP・催し物案内を使ってPRに努めた。	広く普及させるため気軽に利用できる形態にするという考えと、「お茶」という伝統文化を元の形をできるだけ損なわずに守るという考えがある。	呈茶に関しては、市民が直接茶道の先生より茶道の心得を享受できる事もあり、好印象を与えている。		
平成19年度	より利用しやすい施設にするために、広間の床を修理した。足の悪い方のために、立礼席のPRに努めた。	〃	〃			
平成20年度	呈茶のある日は、案内板を設置した。	〃	〃			
平成21年度	呈茶のある日の案内版の設置・館内モニターでのPRを行った。	〃	〃			
平成22年度	呈茶に関しては、気軽に利用できる形態と伝統文化を元の形を損なわずに守るという考えがあり、市民が直接茶道の先生より茶道の心得を享受できる事もあり、好印象を与えている。					
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	茶室「櫻庵」利用者数(人)				640(人)	700(人)	呈茶及び専用利用数を増加することを目標値に設定(みどりの文化祭・豊明まつり・老人作品展・文化講座は除外する)			

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績a(単位)	600(人)	860(人)	1,043(人)	1,053(人)	859					
	直接事業費b(千円)	650	668	650	650	638					
	人件費c(千円)	670	667	662	646	626					
	合計コストd(b+c)(千円)	1,320	1,335	1,312	1,296	1,264					
単位コストd/a(千円)	利用者 当たり 2	利用者 当たり 1.5	利用者 当たり 1.3	利用者 当たり 1.2	利用者 当たり 1.5	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明

→ 直接事業費は、茶席開設委託料(500千円)・消耗品代・臨時職員賃金(年間160時間×800円)。人件費は年度内の関わり(事務分担当)から0.1人として平成22年度は算定した。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	600	860	1,043	1,053	859					
	後期目標値に対する達成度(%)	85.7	122.9	149.0	150.4	122.7					

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価		A	A	A	A	A					

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
3-2 評価の内容	平成18年度	多くの市民に親しんでもらうため、より気軽に利用できる形態が望まれるが、茶室の特殊性とどこまで折り合いをつけるかが問題となる。	使用しやすい施設にするための改善(水禽窟の修理・広間の床の修理)	PRに努めたが、まだまだ市民の認識不足。さらなる周知を図る。
	平成19年度	〃	利用しやすい施設にするための改善(利用に応じての立札席の設置、庭園の景観の維持)	専用利用者が増えてきている。呈茶も団体利用があり、更なる周知を図る。
	平成20年度	〃	効果的に呈茶をPR出来るよう、催し物のある日・.時間に目につくような場所に案内板を置く。	案内板を置くことにより、催し物を観に来た方が、呈茶に行くようになり効果があったと思う。
	平成21年度	〃	より気軽に、特に初めて体験する方を呼び込むため、HP等で実際の呈茶の様子の画像を掲載する等を行う。	案内板や館内モニターでのPR等により利用者も増え、また、専用利用も増加し効果があったと思われる。
	平成22年度	多くの市民に親しんでもらうため、より気軽に利用できる形態(呈茶目呈以外での利用)も望まれるが、茶室の特殊性とどこまで折り合いをつけるかが問題となる。引き続き案内板や館内モニターでのPRをする。茶室の有効利用を図るためには、生け花(講座・教室)等での利用も検討したい。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
4-1 総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
平成27年度			